

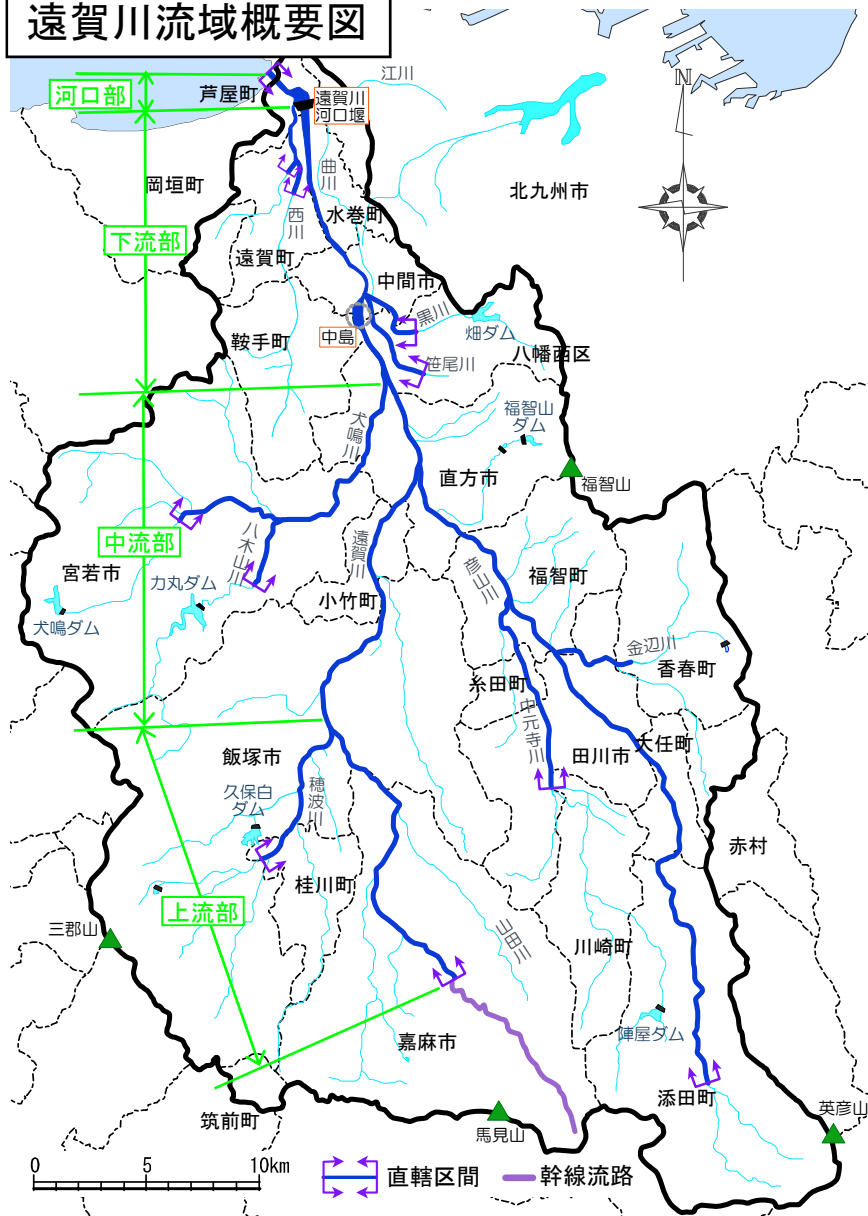
おんが
**遠賀川総合水系
環境整備事業**

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川の概要と特徴〕

遠賀川流域概要図



遠賀川の概要

- ・流域面積: 1,026km²
- ・幹川流路延長: 61km
- ・流域内人口: 約 62万人
- ・流域内市町村: 7 市14 町1 村
(平成22年国勢調査)

■各区間の特徴

<上流部>

- ・扇状地に耕作地が広がり、多くの堰により湛水域が連続し、その水域にはミナミメダカ等が生息している。

<中流部>

- ・河床勾配は緩く、流路の蛇行と広い高水敷が特徴的な河川景観となっており、その高水敷は多目的広場、人工草地などとして利用されている。

<下流部>

- ・中島は約30haに及ぶ下流部で唯一まとまった面積を持つ自然豊かな空間であるが、近年の陸化に伴い外来植物が進行するなど、氾濫原的湿地の減少に伴い生物多様性が低下している。

<河口部>

- ・河口付近の干潟は、シギ・チドリ類の採餌場となっており、また、マゴコロガイ等の底生生物の生息・生育場となっている。

1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川の利用状況〕

＜遠賀川の利用状況＞

- ◆遠賀川流域の河川敷は、散策やサイクリングに利用されているほか、イベント会場、各種スポーツ広場等として利用されている。
- ◆遠賀川の流れる飯塚市では、夏の風物詩である花火大会が、彦山川の流れる田川市では福岡県の五大祭りの一つに数えられる神幸祭など、遠賀川流域の各所で地域イベントが開催され、多くの人々に利用されている。



飯塚納涼花火大会(遠賀川)



風治八幡宮 川渡り神幸祭(彦山川)

1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川水系の目標〕

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞(遠賀川水系河川整備計画抜粋)

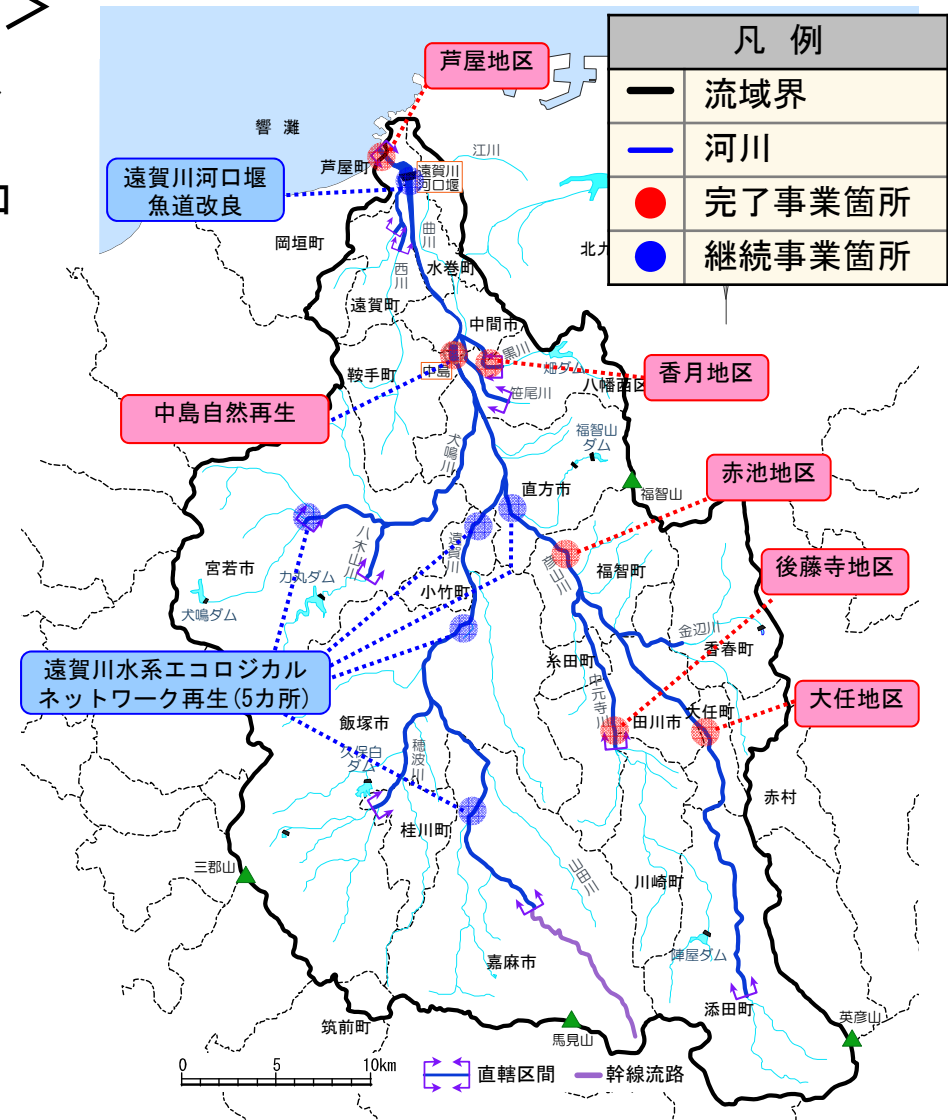
- ◆ 自然環境については、治水・利水面に配慮しつつ、地域と合意形成を図りながら遠賀川における多様な生物の生息・生育環境の保全・再生を目指す。
- ◆ 水質については、近年でも環境基準値を満たしていない地点があるため、地域住民や関係機関と連携し、流域全体で更なる水質の向上を目指す。
- ◆ 河川空間の利用については、親水活動の場、環境学習や自然体験の場、各種イベントや川にまつわる伝統行事の場としての利用など多面的な利活用に対する支援を行い、川の役割、人と川のつながりを継承し次世代へ引き継ぐため、親しみやすく、うるおいのある水辺空間を目指す。
- ◆ 地域を特徴づける歴史・文化を継承しつつ、その地域の景観を尊重し、河川を軸とした新たな観光や文化に発展するような魅力ある川づくりを目指す。
- ◆ 遠賀川における山から海までの連続性に配慮して、水量や水質、地域のつながりなどの視点から、川と人との交流と共生、住民参加による川づくりを目指す。

1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

今回は、事業が完了している芦屋地区、香月地区、赤池地区、後藤寺地区、大任地区の水辺整備と、中島自然再生、並びに継続整備する予定の遠賀川河口堰魚道改良、遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生(いずれも自然再生)について事業評価(再評価)に諮るものである。

区分	箇所名	事業期間
水辺整備	あしや 芦屋地区	平成21年度～平成23年度
	かつき 香月地区	平成17年度～平成19年度
	あかいけ 赤池地区	平成19年度～平成21年度
	ごとうじ 後藤寺地区	平成21年度
	おおとう 大任地区	平成17年度～平成21年度
自然再生	遠賀川河口堰魚道改良	平成20年度～平成30年度予定
	中島自然再生	平成16年度～平成26年度
	遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生	平成21年度～平成38年度予定
【遠賀川総合水系環境整備事業】		平成16年度～平成38年度予定



1. 遠賀川流域の概要〔完了箇所〕

〈完了箇所の概要〉

(1) 芦屋地区

- ◆河岸の洗掘防止のための水制工や階段工、管理用通路等が整備され、安全な水辺の利用が可能となったことから、**住民の日常的な散策や花火大会などの芦屋町のイベントにも利用**されており、事業の効果が発現している。現在の良好な利用状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- ◆整備完了後は芦屋町、地域住民により、清掃などの維持管理が行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

【概要】

位置	遠賀川右岸 0k400付近
事業区分	水辺整備
整備内容	水制工、階段工、管理用通路等
事業費	4.2億円
事業期間	平成21年度～平成23年度

【芦屋地区の利用状況（イベント開催状況）】

イベント名	開催日	参加者数
あしや花火大会	平成25年度	約85,000人
あしや花火大会	平成26年度	約85,000人



芦屋地区水辺整備箇所



水辺の利用状況



花火大会での利用状況

1. 遠賀川流域の概要〔完了箇所〕

〈完了箇所の概要〉

(2) 香月地区

- ◆護岸工や河床の整正、管理用通路等が整備され、また、北九州市において香月・黒川ほたる館を整備するなど、安全な水辺の利用が可能となったことから、**住民の日常的な散策や黒川ホタルまつりなどのイベントにも利用**されており、事業の効果が発現している。現在の良好な利用状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- ◆整備完了後は北九州市、地域住民により、清掃などの維持管理が行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

【概要】

位置	黒川 1k800付近
事業区分	水辺整備
整備内容	護岸工、河床整正、管理用通路等
事業費	2.7億円
事業期間	平成17年度～平成19年度

【香月地区の利用状況（イベント開催状況）】

イベント名	開催日	参加者数
香月・黒川ほたる祭り	平成25年度	約2,000人
香月・黒川ほたる祭り	平成26年度	約2,000人



香月地区水辺整備箇所



ホタル祭りでの利用状況



環境学習での利用状況

1. 遠賀川流域の概要〔完了箇所〕

〈完了箇所の概要〉

(3) 赤池地区

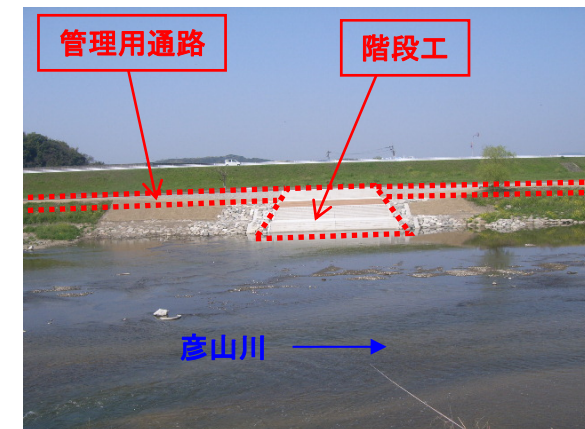
- ◆階段工、管理用通路等が整備され、安全な水辺の利用が可能となったことから、住民の日常的な散策、サケの稚魚放流、Eボート体験イベントなどにも利用されており、事業の効果が発現している。現在の良好な利用状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- ◆整備完了後は福智町、地域住民により、清掃などの維持管理が行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

【概要】

位置	彦山川 5k600付近
事業区分	水辺整備
整備内容	階段工、管理用通路等
事業費	2.4億円
事業期間	平成19年度～平成21年度

【赤池地区の利用状況（イベント開催状況）】

イベント名	開催日	参加者数
鮭放流、環境学習等	平成25年度	約250人
鮭放流、環境学習等	平成26年度	約250人



赤池地区水辺整備箇所



サケの稚魚放流の状況



環境学習での利用状況

1. 遠賀川流域の概要〔完了箇所〕

〈完了箇所の概要〉

(4) 後藤寺地区

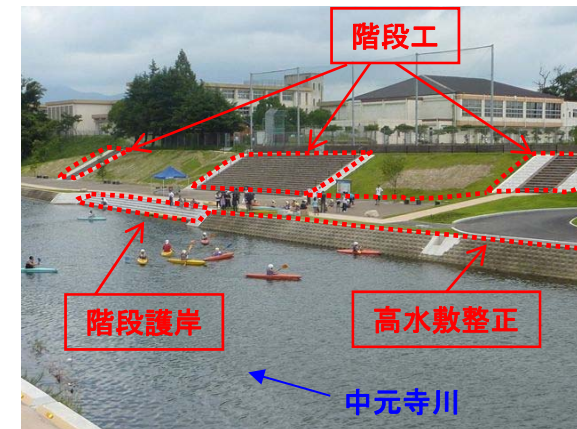
- ◆高水敷の整正、並びに階段工、階段護岸等が整備され、安全な水辺の利用が可能となったことから、**住民の日常的な散策、カヌー教室や水生生物調査などにも利用**されており、事業の効果が発現している。現在の良好な利用状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- ◆整備完了後は田川市、地域住民により、清掃などの維持管理が行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

【概要】

位置	中元寺川 8k000付近
事業区分	水辺整備
整備内容	階段工、階段護岸、高水敷整正等
事業費	1.6億円
事業期間	平成21年度

【後藤寺地区の利用状況（イベント開催状況）】

イベント名	開催日	参加者数
カヌー教室、清掃活動 消防団訓練等	平成25年度	約200人
カヌー教室、清掃活動 消防団訓練等	平成26年度	約200人



後藤寺地区水辺整備箇所



カヌー教室



環境学習での利用状況

1. 遠賀川流域の概要〔完了箇所〕

〈完了箇所の概要〉

(5) 大任地区

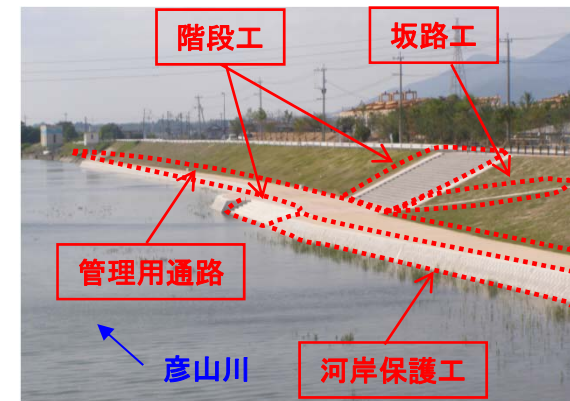
- ◆河岸保護工や階段工、坂路工、管理用通路等が整備され、安全な水辺の利用が可能となったことから、**住民の日常的な散策、水防演習、しじみ祭り、魚釣り大会などにも利用**されており、事業の効果が発現している。現在の良好な利用状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- ◆整備完了後は大任町、地域住民により、清掃などの維持管理が行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

【概要】

位置	彦山川 18k000付近
事業区分	水辺整備
整備内容	河岸保護工、階段工、坂路工、管理用通路等
事業費	4.7億円
事業期間	平成17年度～平成21年度

【大任地区の利用状況（イベント開催状況）】

イベント名	開催日	参加者数
しじみ祭り	平成25年度	約800人
しじみ祭り	平成26年度	約800人



大任地区水辺整備箇所



水防演習



しじみ祭り

1. 遠賀川流域の概要〔完了箇所〕

〈完了箇所の概要〉

(6) 中島自然再生

◆中島の地盤を掘り下げて冠水頻度を高めるとともに、ワンド、たまりやヨシ群落等の氾濫原的湿地を保全・再生することで、湿地域の指標植物であるミゾソバ等が継続的に確認され、ウマスゲが新たに確認されるとともに、ニホンアカガエルも確認されされていることから、生物の生息・生育環境が創出されており、事業の効果が発現している。

◆現在の良好な状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。

◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。

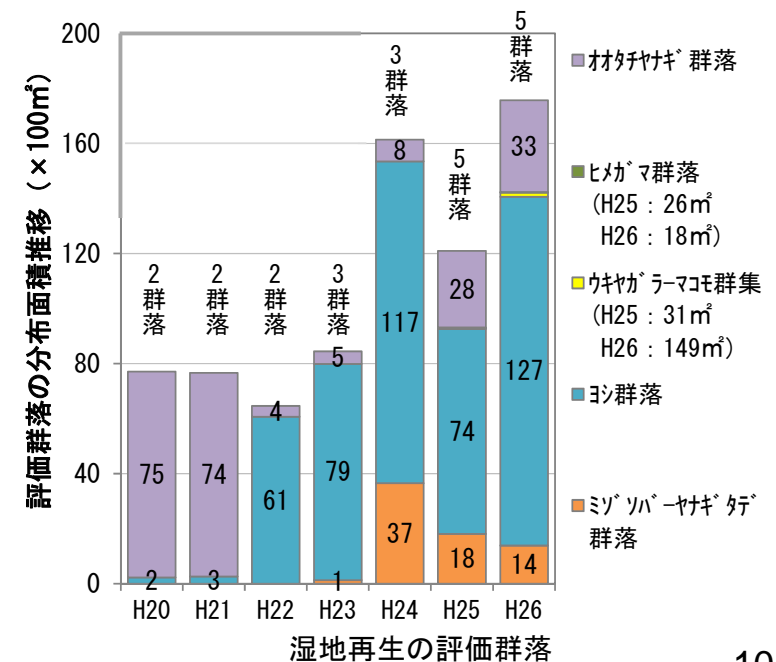
【概要】

位置	遠賀川 12k000付近
事業区分	自然再生
整備内容	掘削、管理用通路、モニタリング調査等
事業費	8.7億円
事業期間	平成16年度～平成26年度



中島自然再生 整備箇所

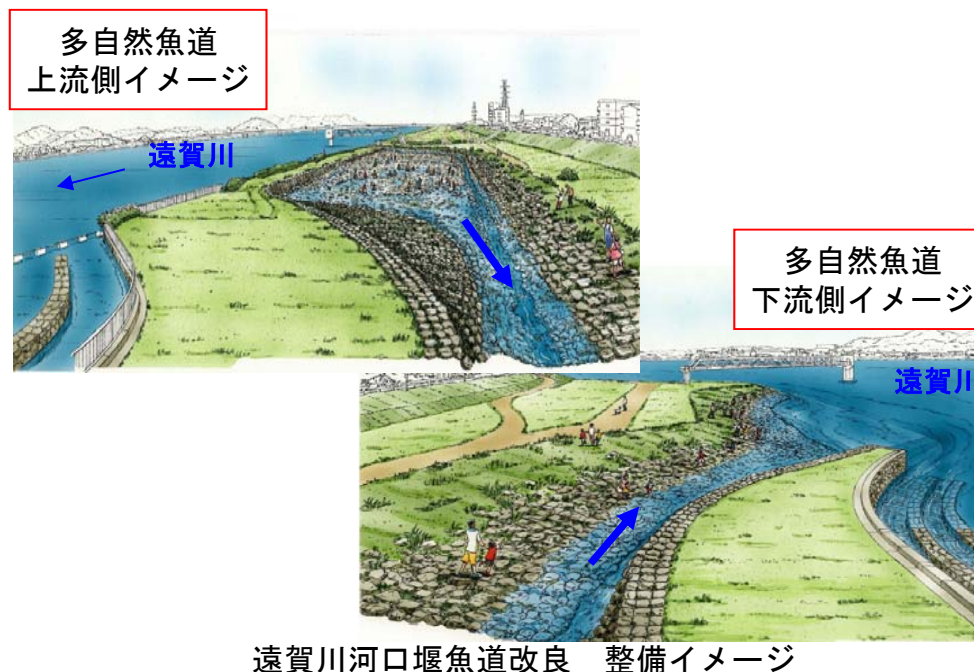
地盤の掘削、ワンド、たまりの再生



2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

＜継続箇所の取り組み状況(遠賀川河口堰魚道改良)＞

- ◆河口堰建設当時(昭和55年)に設置された魚道は、アユ、ウナギを対象に設計されており、大きな魚や川底を這うように移動する魚、著しく泳ぐ力の弱い魚等に対しては遡上条件が厳しく、多種多様な魚には対応していないなど、課題の残る状況であった。
- ◆このため、遠賀川では平成6年度より「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」を実施し、堰など河川横断工作物の魚道の整備・改良等に取り組んできた。
- ◆平成20年度より、流域住民の長年の夢であった遠賀川河口堰の魚道改良事業に着手し、地域住民、学識者、行政機関等からなる「河口堰魚道を考え、望ましい遠賀川を次世代へ繋ぐ懇談会」を平成20年11月に設立し、整備内容、利活用、維持管理等について協議しながら事業を進めている。



「河口堰魚道を考え、望ましい遠賀川を次世代へ繋ぐ懇談会」
の開催状況

2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

＜継続箇所の概要（遠賀川河口堰魚道改良）＞

1) 事業の必要性等

- ◆遠賀川河口堰の魚道は、海と河川の双方を成育の場とする魚種の生息環境を確保する上で極めて重要な役割を果たしている。
- ◆一方で、現在の河口堰魚道は、落差が大きいこと等により、魚類が遡上しやすいとは言い難い状況にあった。
- ◆特に、遠賀川はサケが遡上する南限の河川といわれており、流域で幅広くサケの放流活動が行われることなどから、住民の河口堰魚道にかかる関心も大きい。



【整備前の状況】



【献鮭祭の様子】



2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

2) 事業の概要・目的

- ◆汽水と淡水を緩やかな勾配でつなぐ多自然魚道を整備したことで、既設魚道には見られなかった汽水域で生息する魚種、ツチフキなど比較的の遊泳力の弱い底生魚、重要種のニホンウナギ、アユ等も確認されている。
- ◆引き続き、モニタリング調査を継続する予定である。

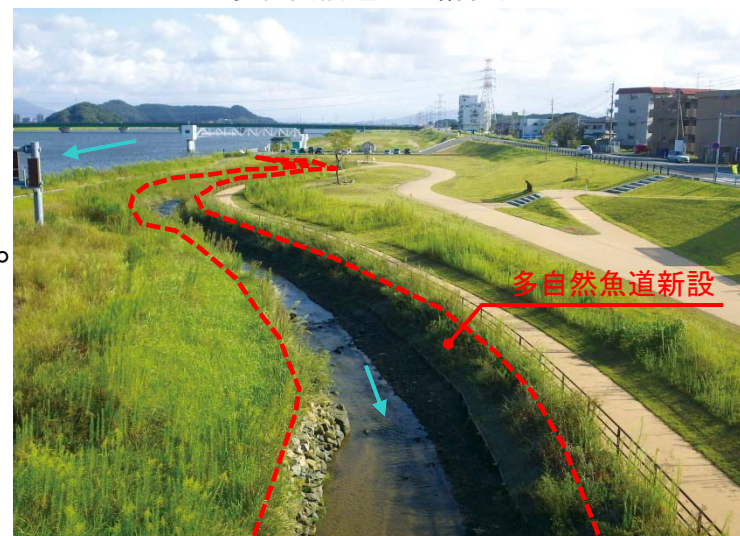
【概要】

位置	遠賀川2k000 付近
事業区分	自然再生
主な整備内容	既設魚道改良、多自然魚道新設 モニタリング調査等
事業費	約6.3億円
整備完了年	平成25年度
事業期間	平成20年度～平成30年度(予定)

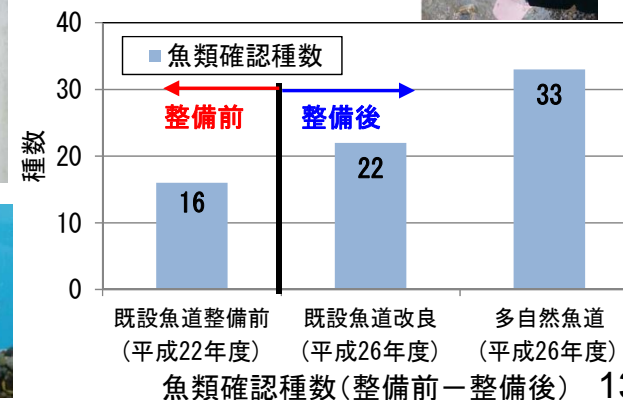
【工程表】

項目	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
多自然魚道新設			■	■	■						
既設魚道改良						■					
モニタリング等	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

多自然魚道の整備状況



多自然魚道の利用状況



2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

3) 事業の推進体制

- ◆地域住民、学識者、関係行政機関及び河川管理者により構成される「河口堰魚道を考え、望ましい遠賀川を次世代へ繋ぐ懇談会」を平成20年11月に設立し、整備内容、利活用、維持管理等について協議しながら事業を進めた。
- ◆整備対象箇所では、地域住民を交えた清掃活動が実施されており、今後も整備内容や維持管理に関するワークショップや現地視察会等を開催して地元自治体や学識者などと緊密に連携してモニタリング・維持管理について協議を行っていく。



遠賀川河口堰魚道改良 ワークショップの状況



学識者現地視察会

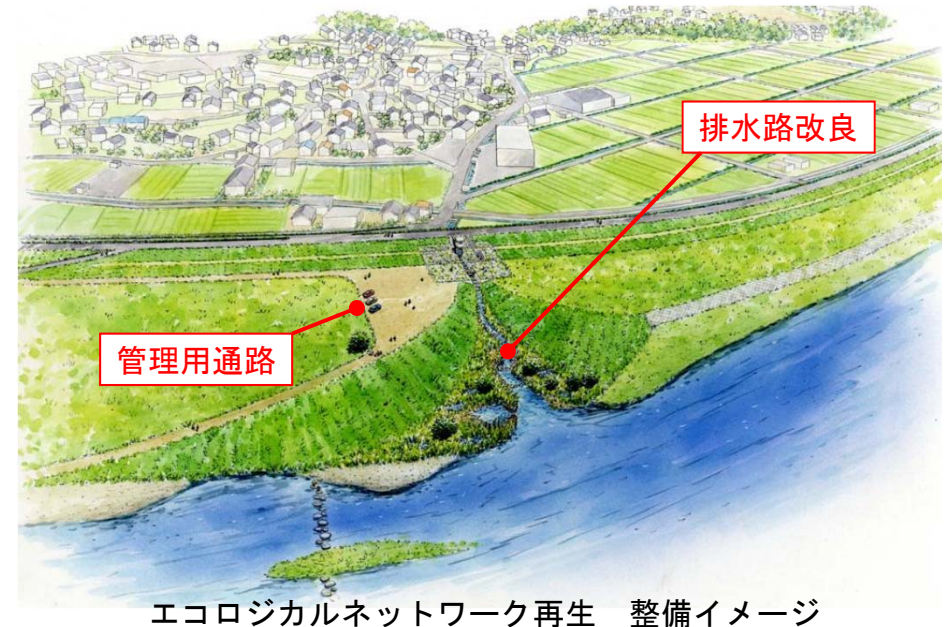


地域住民による清掃活動

2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

＜継続箇所の取り組み状況（遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生）＞

- ◆遠賀川水系では、平成6年より「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」のもと、魚類等の縦断的な移動経路が回復しつつある一方で、堤防を挟んで河川と水路の横断的な移動経路や良好な生息・生育環境が十分に整っていない状況であった。
- ◆このため、平成21年度より「エコロジカルネットワーク再生事業」の取り組みを開始し、生態系ネットワークを形成して、多様で豊かな自然の再生を図るものとしている。
- ◆学識者、住民代表、関係行政機関及び河川管理者により構成される「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」を平成21年7月に設立し、平成27年3月までに計5回の検討会を開催し、整備内容や維持管理方法等に関する検討を進めている。



遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会、現地視察会の状況 15

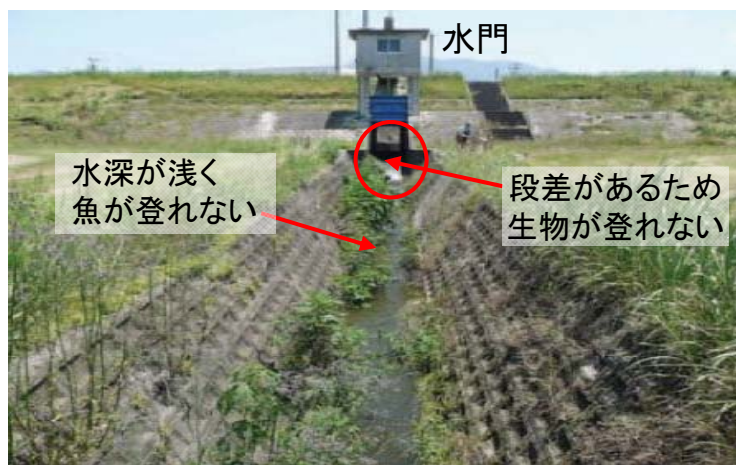
2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

＜継続箇所の概要（遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生）＞

1) 事業の必要性等

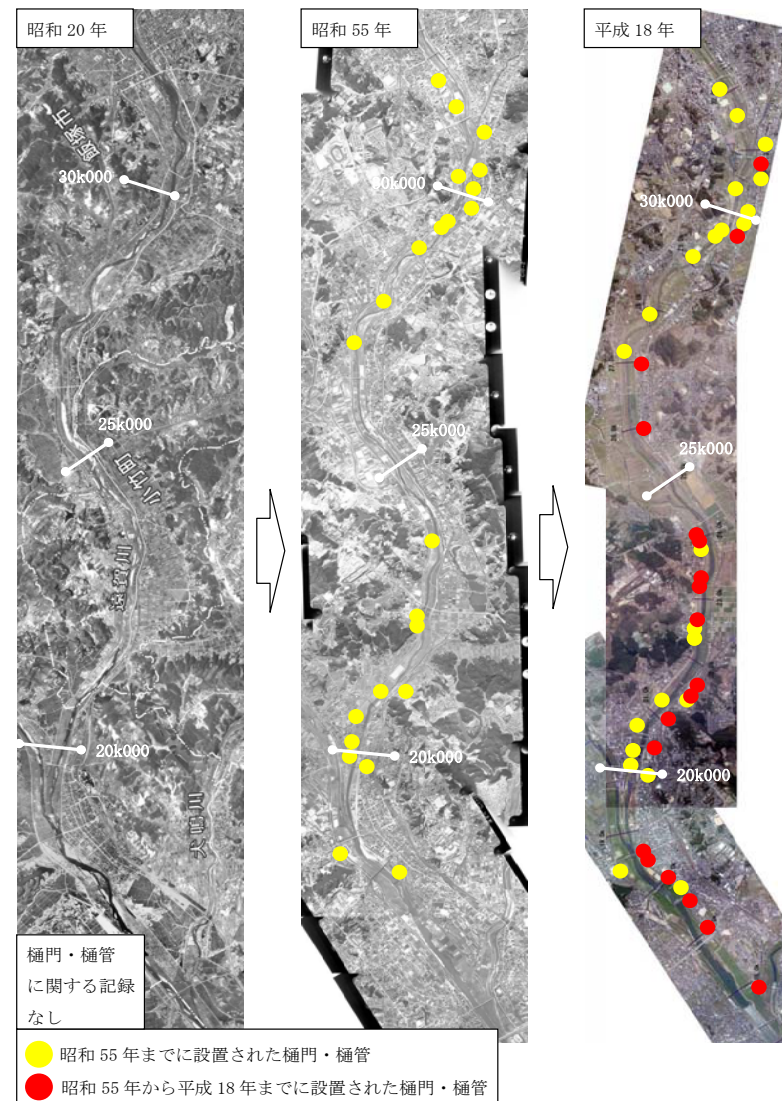
- ◆遠賀川流域では、かつては河川と農業用排水路、水田との連続性が確保されていたが、高度経済成長期の河川改修に伴う堤防整備等により、排水樋管と低水路との落差が大きくなり、堤内側と堤外側の魚類の移動が困難となっている。
- ◆このため、堤内側と堤外側の魚類の移動等の連続性を確保し、魚類等の生息・生育環境の改善を図る必要があった。

現地写真①



【現地の状況】

現地写真②



2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

2) 事業の概要・目的

◆河川と水田や水路との連続性を分断している水門の落差などを解消することで、多様な生物が生息・生育・産卵できる環境を創出するとともに、環境学習や自然と触れあえる場として利用しやすい構造に整備する予定である。

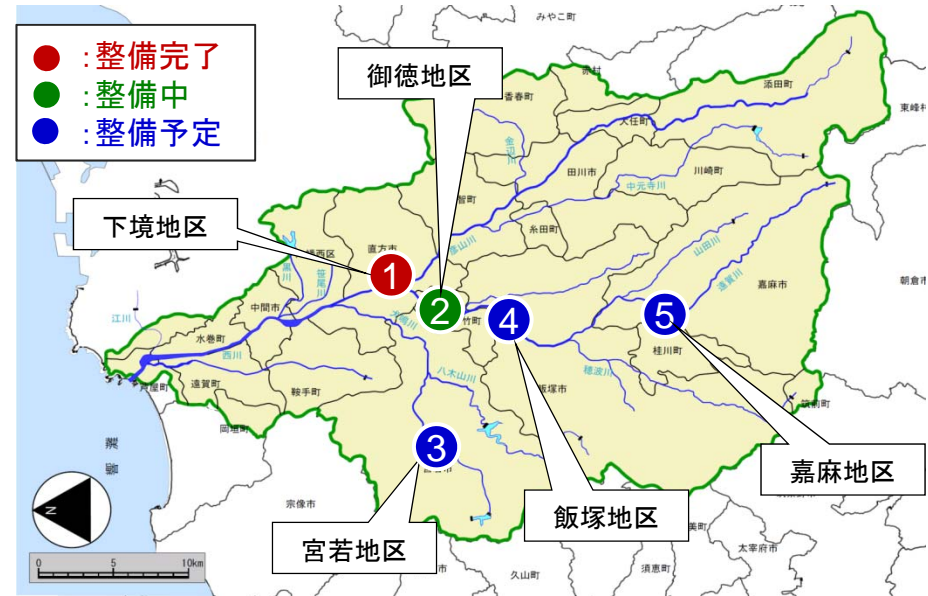
【概要】

位置	遠賀川水系彦山川下境地区 (彦山川0k900付近)、他4箇所
事業区分	自然再生
主な整備内容	排水路改良、管理用通路、 モニタリング調査等
事業費	約10.0億円
整備完了年	平成33年度(予定)
事業期間	平成21年度～平成38年度(予定)

【工程表】

項目	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	
排水路改良	■					■													
管理用通路		■				■		■											
モニタリング等			■					■											★

エコロジカルネットワーク 整備予定箇所



エコロジカルネットワーク整備状況
(下境地区)

★:事後評価

2. 事業の必要性等〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

3) 事業の推進体制

- ◆学識者、住民代表、関係行政機関及び河川管理者により構成される「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」を平成21年7月に設立し、平成27年3月までに計5回の検討会を開催し、整備内容や維持管理方法等に関する検討を進めている。
- ◆整備対象箇所では、地域住民を交えた生物調査等が実施されており、今後も整備内容や維持管理に関する会議を開催して地元関係者と協議を行っていく予定としており、引き続き地域の協力が見込まれる。



遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会の開催状況



住民ワーキングの開催状況



地域住民参加の生物調査

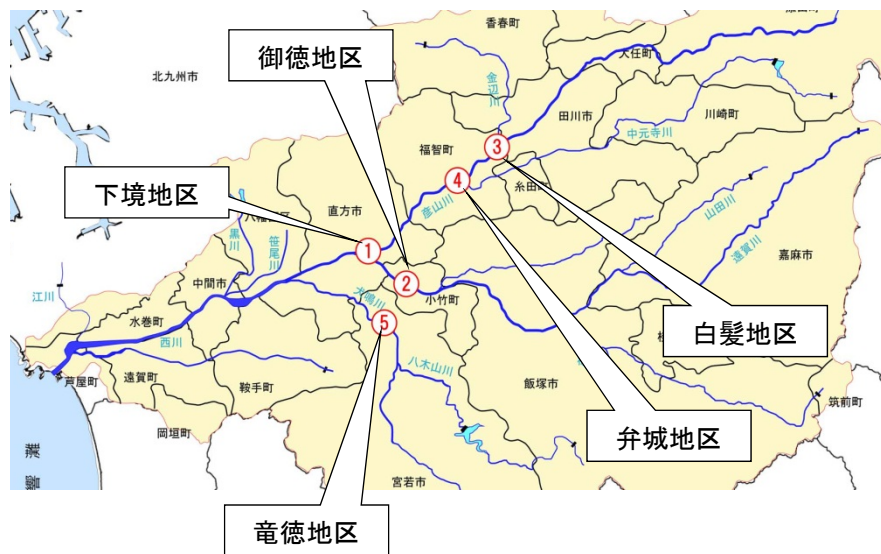
3. 前回評価時からの変化

※遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の整備内容の変更点

- 「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」を通して地域住民、関係機関と具体的な整備内容等に関する意見交換を行っている。
- その結果、当初の予定箇所に対して、検討会や地域関係者のご意見を踏まえて、以下に示す3箇所では今後整備を推進していく方針としている。
- その結果、全事業費が当初の11.5億円から、約10.0億円に変更となっている。

【遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の整備箇所】

<前回評価時の整備予定箇所>



<今回評価時の整備予定箇所>



□ : 前回と同じ整備箇所 □ : 今回変更した整備箇所

3. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (H24年度)	今回評価時 (平成27年度)	変更理由
総事業費	約42.5億円 【水辺整備】 ・芦屋地区 : 約4.2億円 ・香月地区 : 約2.7億円 ・赤池地区 : 約2.4億円 ・後藤寺地区 : 約1.6億円 ・大任地区 : 約4.7億円 【自然再生】 ・遠賀川河口堰魚道改良 : 約6.9億円 ・中島自然再生 : 約8.7億円 ・エコロジカルネットワーク : 約11.5億円	約40.6億円 【水辺整備】 ・芦屋地区 : 約4.2億円 ・香月地区 : 約2.7億円 ・赤池地区 : 約2.4億円 ・後藤寺地区 : 約1.6億円 ・大任地区 : 約4.7億円 【自然再生】 ・遠賀川河口堰魚道改良 : 約6.3億円 ・中島自然再生 : 約8.7億円 ・エコロジカルネットワーク : 約10.0億円	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジカルネットワークの予定整備箇所の見直しに伴う事業費、事業期間の変更 ・遠賀川河口堰魚道改良の現地発生材の有効利用などによる事業費の変更
整備完了年	平成32年度	平成38年度	
B/C	9.1	9.8	
B(便益)	約422.8億円	約592.0億円	
C(費用)	約46.2億円	約60.6億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

<費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益 (B)	費用 (C)	B / C
全事業	40.6億円	—	592.0億円	60.6億円	9.8
完了事業	24.2億円	—	497.8億円	41.7億円	11.9
水辺整備	15.5億円	—	309.1億円	29.1億円	10.6
芦屋地区	4.2億円	水制工、階段工、管理用通路	45.1億円	6.9億円	6.6
香月地区	2.7億円	護岸工、河床整正、管理用通路	152.4億円	5.4億円	28.0
赤池地区	2.4億円	階段工、管理用通路	46.2億円	5.2億円	8.9
後藤寺地区	1.6億円	階段工、階段護岸、高水敷整正	43.8億円	3.3億円	13.1
大任地区	4.7億円	河岸保護工、階段工、坂路工、管理用通路	21.7億円	8.2億円	2.6
自然再生	8.7億円	—	188.7億円	12.6億円	14.9
中島自然再生	8.7億円	掘削、管理用通路、モニタリング調査	188.7億円	12.6億円	14.9
継続事業	16.4億円	—	94.2億円	18.9億円	5.0
自然再生	16.4億円	—	94.2億円	18.9億円	5.0
遠賀川河口堰魚道改良	6.3億円	モニタリング調査	79.3億円	8.2億円	9.7
遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生	10.0億円	排水路改良、管理用通路、モニタリング調査	14.9億円	10.7億円	1.4

	アンケート実施時期	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
中島自然再生	平成27年度	1,000	132	半径10km圏内	164,468	428
エコロジカルネットワーク再生	平成27年度	1,000	122	半径2km圏内	13,911	526

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆遠賀川河口堰魚道改良では、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成20年度から事業に着手し、平成30年度に完了予定である。
- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生では、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成21年度から事業に着手し、他地区の整備を進め平成38年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆遠賀川河口堰魚道改良では、住民参加の清掃活動等により、周辺の利用を促進するとともに、学識経験者のご指導を踏まえたモニタリング調査を継続し、モニタリング調査等により効果発現状況について把握していく予定である。
- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生では、平成21年度に設立された「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」「住民ワーキング」などにより、住民代表者との意見交換を行い、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について議論していく予定である。
- ◆このように両整備箇所では、これからも地域の協力体制のもと計画を創り上げていくこととなっており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆遠賀川河口堰魚道改良は、「河口堰魚道を考え、望ましい遠賀川を次世代へ繋ぐ懇談会」において、計画段階から地域住民等と継続的に協議しつつ、整備を行ったところである。
- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生は、「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」において、計画段階から地域住民等と継続的に協議しながら、より具体的な整備内容を検討しているところである。
- ◆このように両整備箇所において、河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

6. 対応方針(原案)

- ◆遠賀川流域では、流域全22市町村長、福岡県知事、遠賀川河川事務所長が一堂に会し、「水源の山々から海までつながり響きあう生命の環を育てる」などとする「遠賀川流域宣言(平成24年1月)」を行っている。
- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク整備予定箇所(飯塚市、宮若市、嘉麻市)も、遠賀川流域宣言にある「山・川・海と水でつながる流域の人々がお互いを思いやり、一体となって水源の森林や多様な生物の生息・生育環境を守り育てます。」のコンセプトのもと、河川管理者と一体となって、魚類等の成育・繁殖、出水時の避難の場として重要な役割を果たしていた水田等と河川との連続性を確保するための取り組みを推進していくものである。
- ◆遠賀川河口堰魚道では、学識経験者や地域関係者を交えたワークショップ等の開催、遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生では、「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」を通して、整備プランや利活用、維持管理の手法などについて協議を行っているところであり、地域の協力体制が整っている。
- ◆費用対効果について十分見込める事業である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。